

日本鉄鋼協会記事

理事会(第2回)

開催日: 昭和40年4月21日, 場所: 帝国ホテル旧館宴会場, 出席者: 湯川会長他42名.

議題

1. クリープ委員会に関する件
2. 第2回編集委員会に関する件
3. 第2回企画委員会に関する件
4. 第2回研究委員会に関する件
5. 標準化委員会に関する件
6. 支部長会議に関する件
7. 金属学会との連絡懇親会に関する件
8. 第11回大河内賞受賞者決定の件
9. 常務委員委嘱に関する件
10. 東海支部支部規則一部変更および役員変更の件
11. 海外鉄鋼事情調査委託に関する件
12. 名誉会員の処遇に関する件
13. 役員慶弔基準に関する件
14. 今後の国際的行事の開催に関する件
15. 昭和40年3月入退会その他会員異動に関する件
16. 昭和40年3月中収支決算に関する件

企画委員会

第2回委員会 開催日: 昭和40年4月20日. 場所: 協会々議室. 出席者: 伊木委員長他7名.

議題 I. 海外鉄鋼事情調査委託に関する件. II. 今後の国際的行事の運営に関する件. III. 名誉会員処遇に関する件.

研究委員会

第2回委員会 開催日: 昭和40年4月16日. 場所: 協会々議室. 出席者: 村田委員長他18名.

内容

1. 標準化委員会報告.
2. 共同研究会内に新部会設置: 38年より準備を進めていた設備技術に関する共同研究を共同研究会で行なうこととし, 部会名は設備技術部会とする.
3. 国際会議のテーマ: 1967~69年の間に開催予定の鉄鋼関係の国際会議テーマについて意見を交換.
4. 基礎共研の非金属介在物グループへの研究補助について.

編集委員会

第2回委員会 開催日: 昭和40年4月19日. 場所: 協会々議室. 出席者: 佐藤委員長他12名.

内容

1. 論文審査報告.
2. 第51年第9号(8月号)掲載論文選定.
3. 投稿論文について
「鉄と鋼」投稿規程改訂以来, 講演論文の取扱いについて, 会員によく理解されていないので, 会誌

改善小委員会で検討し, 周知してもらうことになった.

欧文誌編集委員会

第1回委員会 開催日: 昭和40年4月30日. 場所: 協会々議室. 出席者: 佐藤委員長他9名.

報告事項 I. vol. IV, No.4, 完成予定について.
協議事項 I. vol. V, No.2, No.3の掲載論文, その他内容選定. II. 欧文誌論文寄稿規程改革についての審議. III. 講演論文 Synopsis 選定について.

50周年記念行事準備委員会

開催日: 昭和40年3月17日. 場所: 協会々議室. 出席者: 辻畑委員長他10名.

会議事項

1. 式典関係
祝辞の同時通訳etc はあらかじめ依頼して置く.
2. カクテルパーティ関係
(1) あいさつ
湯川会長, 赤坂氏, Sir A. McCance, 三島教授
をお願いする.
3. ディナーパーティ関係
(1) あいさつ
永野会長(鉄連), 湯川会長, Dr. Schenk,
愛知文相.
4. その他

訪ソ特殊鋼代表団報告講演会

開催日: 昭和40年3月26日. 場所: 発明会館ホール.

内容

映画 13:30~14:00

講演 14:00~17:00

1. 一般情勢について
大同製鋼(株)副社長 林 達夫君
2. 経済, 労働について
特殊製鋼(株)取締役 絵野沢喜之助君
3. 研究所について
山陽特殊製鋼(株)研究所長 結 城 晋君
4. 生産技術について
日本冶金工業(株)取締役 川 畑 正 夫君

40年度支部長会議

開催日: 昭和40年4月5日. 場所: 学士会館(本郷).
出席者: 湯川会長他22名.

内容

1. 各支部よりの報告
北海道, 東北, 東海, 北陸, 関西, 中国四国, 九州各支部長または代理から各支部の事業報告および会計報告を行なった.
2. 本部よりの報告
最近における事業の概要, 特に創立50周年記念事業, 記念出版, 式典, 来朝外国人, その視察予定

につき報告があつた。

3. 本部、支部間の連絡事項

共同研究会

製鉄部会

第4回在京幹事会 開催日：昭和40年3月15日。場所：協会々議室。出席者：林部会長他5名。

製鋼部会

在京幹事会 開催日：昭和40年4月19日。場所：丸ノ内ホテル。出席者：甲斐幹事他8名。

鑄型分科会

第2回鑄型設計マニュアル作成小委員会

開催日：昭和40年4月27日。場所：学士会館(神田)。出席者：斎藤幹事他12名。

内容

1. 第1回小委員会にて話あわれた基本方針の再確認。
2. マニュアル作成のための第1回アンケートの要点と起案者の確認：型式は37年のアンケートにより、これに廃却条件、面の膨み、などの詳細を付する。乾事が起案する。
3. 测温方式：NK橋本委員より鑄型壁温測定の推奨方式が示され、これを探ることとした。
4. 鋼塊の Dimension と品質の問題は、製鋼部会長あて、分科会主査より申し入れを行なつて、それによりどちらがこれを扱うか決める。

鋼板部会

ストリップ分科会

第1回コールドストリップ小委員会 開催日：昭和40年3月26日。場所：協会々議室。出席者：細木幹事他26名。

内容

各社の酸洗および冷間圧延設備につき設備概要を諸元表にしたがい説明を行なつた。

なお次回の開催、議題運営について別途在京委員会で検討する。

本委員会はとくに各社があまり発表していない冷延関係のため運営について問題があつたが会議は積極的に意見交換など行なわれ、第1回としては満足できる成果を得た。

条鋼部会

第18回中小形分科会 開催日：昭和40年4月20、21日。場所：大同製鋼、知多工場。出席者：北村主査他80名。

内容

1. 工場操業状況(昭和39年10月, 11月, 12月)
 - (1) 作業時間調査表
 - (2) 製品歩留原単位調査表
2. テーマ研究
 - (1) グループ製品の表面キズおよび寸法精度におよぼすパススケジュールの影響について。
 - (2) Bグループ製品の表示方式の現状と合理化につ

いて。

3. 自由研究

4. その他

鉄鋼生産設備能力算定方式について。

5. 工場見学

大同製鋼(株)知多工場

愛知製鋼(株)知多工場

計測部会

幹事会 開催日：昭和40年4月23日。場所：日本鋼管(株)高輪寮。出席者：桂部会長他12名。

調査部会

幹事会 開催日：昭和40年3月1日。場所：協会々議室。出席者：斎藤幹事他7名。

幹事会 開催日：昭和40年3月6日。場所：協会議室。出席者：斎藤幹事他8名。

幹事会 開催日：昭和40年3月25日。場所：川崎製鉄松濤荘。出席者：斎藤幹事他7名。

第17回部会 開催日：昭和40年4月15, 16日。場所：八幡製鉄(株)八幡製鉄所。出席者：木寺部会長他45名。

内容

1. 構内輸送調査報告
2. 高熱物輸送調査報告
3. 原料専用岸壁能力調査報告

以上の3件につき各社提出資料の報告検討を行ない次いで機械計算を用いた原料専用岸壁能力調査を行なう件および原単位資料の定期交換を行なう件の検討を行なつた。

第2日午後は八幡製造所、戸畑製造所の原料岸壁品倉庫関係の見学を行なつた。

鉄鋼分析部会

蛍光X線分科会「JIS原案作成委員会」

開催日：昭和40年3月11, 12日。場所：富士製鉄伊東保養所。出席者：川村主査他11名。

内容

ステンレス鋼の蛍光X線分析方法原案作成のために各社で分担して行なつた共同実験結果の集計および審議を行なつた。

この結果統一検量線の作成はかなり困難があり今回は行なわない。また補正方法につき検討を行なつたが原案本文への feed neck は別途在京委員会で検討する。

標準化委員会

第3回委員会 開催日：昭和40年3月25日。場所：協会々議室。出席者：作井委員長他22名。

内容

1. JIS原案作成分科会報告、および工技院への答申の承認。
2. JSO, JIS検討のための新分科会発足の承認。前回の幹事会で承認した4分科会の他に鋼管分科会を追加した。

第5回幹事会 開催日：昭和40年3月11日。場所：竜名館。出席者：作井委員長他15名。

内 容

1. ISO対策を主体とした分科会として普通鋼，特殊鋼，ブリキ，機械試験の4分科会の発足が決つた。
2. 来年度の事業計画として次の分科会を置くことが決つた。
高速度鋼，熱間薄板，バネ鋼，低マンガン鋼。
3. 原案作成分科会経過報告
4. 技術講座(規格篇)の作成について
次回幹事会までに事務局で目次，担当者の検討を行なう。

第6回幹事会 開催日：昭和40年4月14日。場所：協会々議室。

内 容

1. 熱延薄板，高速度鋼原案分科会の構成員を決定しばね鋼原案分科会については再審議。
2. 普通鋼，特殊鋼，鋼管，ブリキ板，機械試験方法分科会の目的および業務内容を決定し，ブリキ板分科会を除き，構成員を決定した。
3. 本年JIS度作成および改正のテーマとして工技院より次の6項目の申入があつた。
①熱処理用語 ②焼入硬化層の測定法 ③熱延薄板 ④高速度鋼 ⑤バネ鋼 ⑥クリープ試験方法
このうち②を除き引受けることにした。

第1回「ブリキ分科会」 開催日：昭和40年3月29日
場所：鉄鋼連盟第2会議室。出席者：萩原主査他19名。

内 容

ISOから送られたTC.17 GTPのブリキ第4次案の検討を行ない本日の決議事項にしたがつて幹事会社にてCommentを作成し協会工技院を経て提出する。

第3回炭素鋼標準成分分科会 開催日：昭和40年3月3日。場所：協会々議室。出席者：荒木主査他19名。

内 容

前回の議事に基き，各社の意見発表があつた。検討の結果「標準成分による炭素鋼々材」として，ある程度の条件を付して答申することに決つた。最終案は第1～3回までの検討を折込んだものを第4回において決定する。

第4回炭素鋼標準成分分科会 開催日：昭和40年3月25日。場所：協会々議室。出席者：荒木主査他18名。

内 容

第3回までの検討結果にしたがつて，幹事会社で最終案を提出し，その検討を行なつた。

この案は最終的には，標準化委員会で承認を得る運びになつた。

第3回JIS原案作成分科会

「鋼材のチェック分析の許容変動」

開催日：昭和40年3月5日。場所：協会々議室。出席者：河田主査他27名。

内 容

前もつて配布した原案第2次案について各社から寄せられた意見にしたがつて検討を行なつた。この決定事項にしたがつて幹事会社で最終案を作成し標準化委員会の決議を経て工技院に提出する。

JIS原案打合せ会

第4回低温圧力容器用鋼板

開催日：昭和40年3月9日。場所：川崎製鉄(株)東京会議室。出席者：泉谷主査他12名。

内 容

1. JIS原案の記号について
S.L.—降伏点—使用温度区分：A.B.C.
2. 鋼種について
Y.P.=24. T.S.=41~50. SM41.
1種にひとまず決めておいてさらに検討の末増すことになつた。
3. 板厚について
3区分法。32mmでさらに検討する。

第1回低温圧力容器用鋼板原案作成小委員会

開催日：昭和40年3月16日。場所：協会々議室。出席者：作井委員長他19名。

内 容

1. JIS原案について
打合会で作成した素案について種々検討した結果特に大きな変更なく「低温用鋼板JIS原案」ができ上つた。
2. その他
上記案にさらに数種鋼種を増やし専門委員会にかけることになつた。

資 料 委 員 会

第19回委員会 開催日：昭和40年3月9日。場所：学士会館(神田)。出席者：雀部委員長他11名。

会議事項

1. Trans B.I.S.I. 発注方法に関する件
2. 情報センターの文献分類に関する件
3. Abstract Card 購入に関する件。

第20回委員会 開催日：昭和40年4月27日。場所：学士会館(神田)。出席者：雀部委員長他14名。

内 容

会誌“鉄と鋼”において図書の本来の意義を果たすために分類番号(U.D.C)をつけることによつてより利用度を高めるのではないか。

現在点に立つてみてまず編集委員の方々に分類の意義を把握していただきテストケースとして実行したらよいのではないか。

試 験 高 炉 委 員 会

第4回委員会 開催日：昭和40年4月2日。場所：東大生研，千葉実験場。出席者：辻畑委員長他14名。

内 容

1. 第16次操業経過報告(東大館助教授)基準操業4m³/minより増風した5m³/minの方がコークス化は下つている。1回/1日で低Si，高Sの銑鉄が出ている。ガス分布は直径，周径ともあまり差はない。
2. その他
3. 実験場見学

国内炭活用製鉄用コークス製造試験委員会

第2回委員会 開催日: 昭和40年4月28日. 場所: 学士会館(神田). 出席者: 速水委員長他23名.

内 容

39年度予算にて設備建設も終了し, 4月に入つてから基礎試験の準備(作業訓練等)を行つているので設備建設経過, その後の準備, 試験状況の報告があつた.

なお今回の試験の見学に当つては試験実施を乱さないように協会の許可制をとるようになった.

ク リ ー プ 委 員 会

第1回委員会 開催日: 昭和40年4月22日. 場所: 協会々議室. 出席者: 三島委員長他22名.

内 容

クリープ委員会の第1回会議が開催され, まづ鉄鋼協会々長挨拶として副会長作井氏より挨拶があり, 次いで委員長三島氏の就任挨拶が行なわれ議事に入った.

審議された議題の主なるもの次のとおりである.

1. クリープ委員会組織機構について.
2. 同幹事会および連絡会について.
3. クリープ委員会において差当つて検討すべき事項について.

この度決定したクリープ委員会の委員の各氏は次の名である.

クリープ委員会委員名簿(敬称略)

- 三島 徳七(東京大学名誉教授)
 作井 誠太(東京工業大学教授)
 平 修二(京都大学教授)
 横堀 武夫(東北大学教授)
 鶴戸口英善(東京大学教授)
 喜多河庸二(科学技術庁振興局振興課長)
 河田 和美(科学技術庁金属材料技術研究所鉄鋼材料研究部長兼材料試験部長)
 木下 享(通商産業省工業技術院標準部材料規格課長)
 藤波 恒雄(通商産業省公益事業局施設課長)
 秋田 武夫(八幡製鉄(株)技術開発部長)
 小島 義正(住友金属工業(株)顧問)
 高尾善一郎((株)神戸製鋼所取締役)
 玉木 福宣((株)日立製作所電気事業部次長)
 岡村 健二(三菱重工(株)技術本部技術管理部長)
 和田 重暢(東京芝浦電気(株)中央研究所副所長)
 山中 秀男(ボイラー協会一日立造船(株)(発電機器)技術部長)
 名見耶 馨(クリープ試験技術研究組合理事)
 俵 信次(日本鉄鋼会)
 田畑新太郎(同上)

ク リ ー プ 試 験 技 術 研 究 組 合

第28回技術委員会 開催日: 昭和40年3月13日. 場所: 協会々議室. 出席者: 平修二委員長他21名.

会議事項

1. 38年度試験結果中間報告, および報告書作成要領

の検討

2. 39年度試験実施方案の修正事項の確認
3. 39年度試験機製作状況(関東地区)の立合結果報告

第29回技術委員会 開催日: 昭和40年4月27日.

場所: 協会々議室. 出席者: 平修二委員長他19名.

内 容

38年度特殊雰囲気クリープ試験結果および39年度複式試験機による長時間試験に関する審議が行なわれた.

主な事項は次の通りである.

1. 38年度クリープ試験結果各項目別報告について.
 - (1) 重油燃焼ガス雰囲気中
 - (2) 真空雰囲気中
 - (3) アルゴンガス雰囲気中
 - (4) 弱酸性雰囲気(大気)中
2. 39年度試験材製造履歴について.
3. その他
グリープ委員会について
1966年ロンドン会議について.

第19回運営委員会 開催日: 昭和40年3月6日.

場所: 協会々議室. 出席者: 俵信次委員長他14名.

会議内容

1. 40年度事業計画および同分担金につき審議が行なわれ事業計画はアンケート結果により38年度試験結果の取りまとめと39年度試験計画の実施を行ない, 試験機製作購入を行なわないこととなつた. また分担金について上記事業計画に基き一般経費を前年度どおり徴収する方針が諒承された.
2. クリープ委員会の活動のため従来の経緯もあり同委員会が自前で活動できるまで, 当研究組合で積極的に支援することが諒承された.

鉄鋼照射試験研究合同委員会

臨時合同委員会 開催日: 昭和40年3月5日. 場所: 学士会館(神田). 出席者: 長谷川委員長他22名.

内 容

40年度試験について今回では主として各社の試験希望鋼種についての検討を行なつた. この結果大体 80 kg ハイテンクラスの厚板の使用をすることとなりHY80およびその改良型鋼材が適当であるが詳細は次回に再検討する.

第10回合同委員会 開催日: 昭和40年3月22日.

場所: 協会々議室. 出席者: 長谷川委員長他30名.

会議事項

1. 38年度試験研究の報告
原研, 阪大, 早大, 日本鋼管, 川崎製鉄, 日立製作所より分担試験の報告を行なつた.
2. 三菱原子力原子力経過報告
3. 昭和40年度試験補助金申請書の作成.
事務局で作成した粗案の検討を行ない科技厅に提出することとした.

第11回合同委員会 開催日: 昭和40年4月26日.

場所: 協会々議室. 出席者: 長谷川委員長他26名.

内 容

1. 試験経過報告

第一次分は照射量のバラツキに留意し、8月中に照射が行なわれるよう要望中。

第二次分は照射量を $3 \times 10^{19} \text{nvt(F)}$ に統一し、試片の一部は発送されている。

2. 38年度炉外試験報告

38年度の炉外試験報告は6月7日をもつて締切る。

3. 40年度計画

二級会員および、国内照射試験アンケートには未着分があるので、5月17日に再検討する。

40年度照射試験計画打合せ 開催日：昭和40年3月15日。場所：三菱原子力工業株会議室。出席者：長谷川委員長他12名。

内容

40年度照射試験に各社が提供できる鋼材の説明および経費の分担について検討し大体80kg ハイテン、HY80を採用し新一級会員中八幡、富士、日鋼、石川島が母材、神鋼、三菱重工が溶接部について試験を担当することとなった。

照射試験計画打合せ 開催日：昭和40年3月29日。場

所：協会々議室。出席者：長谷川委員長他10名。

内容

試験材の担当の再確認および費用関係の検討を行なった。

この結果民間負担が当初の予定よりかなり少なくなり運営の若干困難が予想されるがこの点特に事務局にて検討することとする。

第4回照射試験立会者連絡会 開催日：昭和40年4月13日。場所：日本鋼管(株)来宮厚生寮。出席者：長谷川委員長他15名。

内容

1. 鉄鋼の照射試験経過報告—三菱原子力
 2. 立会時の宿舍などについての説明—三菱原子力
 3. 鋼に対する中性子照射の影響—原研
 4. ASTM-A302B鋼エレクトロスラグ溶接熱影響部の衝撃試験結果ならびに照射脆化予想—富士製鉄
- 次いで40年度試験計画につき40年度一級会員にて検討行なつた。

新入会員氏名

(昭和40年3月1日～3月1日)

維持会員

(株) 双文社印刷所2口

正会員

岸 忠男 富士製鉄(株)
 小口 哲夫 〃
 武田 正男 〃 広畑製鉄所
 岩本 昭男 日新製鋼(株)
 桑野 裕 住友金属工業(株)
 白岩 俊男 〃
 大倉 忠允 大同製鋼(株)
 渡辺 輝夫 〃
 細田 豊作 日本鋼管(株)
 藤村 武生 〃

相原 正 住友金属鉱山(株)
 大友 三郎 山陽特殊製鋼(株)
 鳥谷 好夫 三井石油化学(株)
 半田 豊 同和鉱業(株)
 梅津 善徳 八幡製鉄(株)
 土谷 幸司 東芝電興(株)
 小沢 寅平 中部鋼板(株)
 都島 貞雄 八幡製鉄(株)
 佐藤 宏 東北特殊鋼(株)
 石突 治康 愛知製鋼(株)
 犬柿 諒 東海製鉄(株)
 清水 勉 久保田鉄工(株)
 駒井 修 日曹製鋼(株)

藤原 七郎 (株)ガドリウス商会
 福田 豊 金属材料研究所
 東 光郎 富士製鉄(株)
 小笠原 正 〃
 中沢 巖 〃
 田淵 光雅 山陽特殊製鋼(株)
 学生会員
 川合 亜之 名古屋大学工学部
 大野 友敬 〃
 本田 広雄 茨城大学
 ハッサン 東京大学
 高橋 純造 大阪大学工学部

(昭和40年4月1日～4月30日)

正会員

片岡 隆昭 住友金属工業(株)
 沖野 俊夫 〃
 藤井 孝一 〃
 藤野 允克 〃
 本多 洋三 〃
 小林 隆衛 〃
 西村 久雄 〃
 山本 宣雄 〃
 横井 八郎 〃
 多田 節男 〃
 小西 行雄 川崎製鉄(株)
 斉藤征太郎 〃
 中川 康弘 〃
 西村 隆 〃
 槌谷 暢男 川崎製鉄(株)
 青木 邦男 (株)日立製作所

遠藤 宗広 〃
 小鹿 敏夫 〃
 梶原 利幸 〃
 加藤 孝之 〃
 中西 恒夫 〃
 町田 金重 〃
 吉田 一広 〃
 高橋 俊夫 〃
 河合 孝平 日本鋼管(株)
 佐藤 秀樹 〃
 松本 哲 〃
 山本 清司 〃
 金子 康弘 〃
 美間岩太郎 〃
 枝広 一朗 日新製鋼(株)
 橋尾 秀巳 〃
 中川 吉勝 〃

近堂 信良 日本ステンレス(株)
 庄司 雄次 〃
 中静 弘海 〃 〃
 吉田 毅 〃
 大角 治勝 富士製鉄(株)
 三木 寿生 〃
 増田 孝 八幡製鉄(株)
 丸岡 昭博 〃
 古屋 光雄 〃
 鈴木 博夫 大同製鋼(株)
 藤平 荘次郎 〃
 森 成敏 大同製鋼(株)
 三木宗之助 (株)神戸製鋼所
 大崎 正治 〃
 宮沢 賢二 関東特殊製鋼(株)
 坂下 修一 三菱製鋼(株)
 大和田靖憲 東海製鉄(株)

辻川 孝雄 中山製鋼所
 溝江 幹生 住友電気工業(株)
 大畑 敏夫 中山製鋼所
 田中 千秋 金属材料技術研究所
 春日井孝昌 〃
 原山 俊彦 太平洋ニッケル(株)
 柳田 颯一 日本鑄造(株)
 伊勢田 守 古河鋳業(株)
 馬場 健 (株)東海理化電機製作所
 江村 徳松 日本鋼管(株)
 橋本勇二郎 〃 〃
 中原 義雄 八幡製鉄(株)
 石原 伸興 〃
 萩原 靖久 芝工下金属工学科
 杉山 博昭 日本精工(株)
 佐藤 秀昭 東海製鉄(株)
 斉藤 幸雄 東北金属工業(株)
 子安 和政 大同製鋼(株)
 矢野 政利 中部鋼板(株)
 足立 哲朗 〃
 眼部 吉成 愛知製鋼(株)
 今井 直 日本鋳業(株)
 小田 伸彬 日本曹達(株)
 山中 稔 昭和電工(株)
 東海林信悦 東芝電興(株)
 和泉 重彦 (株)不二越
 萩原 正康 〃
 森 圭一郎 〃
 梅沢 英夫 〃
 河崎 勲 滋賀県立機械金属工業指導所
 宮本 明 日本鋼管(株)
 鈴木 敏夫 北海道大工学部
 渡辺 晴夫 愛媛大学工学部
 謝 俊傑 東北大学工学部
 千原 秀昭 大阪大学理学部
 大島 聡 苫小牧工専機械工学科
 熱田 友二 〃

学 生 会 員

浅岡 照夫 早稲田大学理工学部
 阿部 元司 〃 〃
 天野 晃秀 〃 〃
 石黒 寿一 〃 〃
 宇野 哲夫 〃 〃
 大橋 和徳 〃 〃
 岡田 隆章 〃 〃
 加藤 誠 〃 〃
 川崎 正洋 〃 〃
 木林 靖忠 〃 〃
 栗原 栄一 〃 〃
 栗林 章雄 〃 〃
 栗山 凱夫 〃 〃
 小泉 哲弥 〃 〃
 黄 仁 基 〃 〃
 国府田 昭 〃 〃
 古賀 秀昭 〃 〃
 小島 謙一 〃 〃
 小林 毅 〃 〃
 篠原 康男 〃 〃
 新谷 紀雄 〃 〃
 銭林 豪 〃 〃
 高橋 正義 〃 〃
 武井 雅光 〃 〃
 竹内 英二 〃 〃
 徳丸 義明 〃 〃
 中林 誠 〃 〃
 西 道夫 〃 〃
 高橋 聡暢 〃 〃
 谷岸 勝造 〃 〃
 柘植 晴重 〃 〃
 得能 祥郎 〃 〃
 中村 修 〃 〃
 中島 甫 〃 〃
 中村 尚 〃 〃
 西村堅一郎 〃 〃
 眼部 道紀 〃 〃
 古谷 嵩司 〃 〃
 平田 毅 〃 〃
 藤代 紘男 〃 〃

堀井 建男 早稲田大学理工学部
 真下 正夫 〃 〃
 増喜 浩二 〃 〃
 宮野 信雄 〃 〃
 宗方 真幸 〃 〃
 矢野 怜 〃 〃
 山口 幾男 〃 〃
 山田 康行 〃 〃
 山田 真 〃 〃
 山本 武彦 〃 〃
 吉岡 肇 〃 〃
 ヨハネス・ソフワット 〃 〃
 劉 俊男 〃 〃
 渡辺 祐一 〃 〃
 岩田 光正 名古屋大学大学院
 上田 勝彦 〃 〃
 水野 信之 〃 〃
 加藤 順一 名古屋大学工学部
 坂田 直起 〃 〃
 佐々木 恵一 〃 〃
 杉江 英司 〃 〃
 竹田 元彦 〃 〃
 富貴 原璋 〃 〃
 赤松 和彦 〃 〃
 今井 兼敬 〃 〃
 猪野 信吾 東京大学大学院工学
 田辺 博一 〃 化学
 土佐 邦雄 大阪府立大学工学部
 峯 紘道 〃 〃
 中篠 宣義 千葉工業大学工学部
 多名井 宏 〃 〃
 羽計 一宏 茨城大学工学部
 松橋 勇作 鉄鋼短期大学鉄鋼科
 延原 哲 〃 〃
 久我 正昭 京都大学工学部
 岡島 弘明 〃 〃
 篠田 剛 名古屋大学大学院
 武藤 隆司 秋田大学鋳山学部
 和田 英昭 〃 〃
 酒井 昌宏 北海道大学工学部
 上原 功 工学院大学工学部

外 国 会 員

Clyde Williams (Clyde Business Consultant
 Williams & Co.)
 Stewarts and Lloyds Steel and Tube
 Ltd. Makers
 Donald R. Mac Rae
 Richaard Thomas & Steel, Tinplate &
 Baldwins Ltd. Sheet Manufacturers
 Dr. Ing. H. W. Balster
 Dr. B. R. Nijhawan Research work
 Copperweld Steel Steel Manufacturer
 Company Aristoloy
 Steel Div.
 Rofl K. Linder
 (The Grangesberg Co.)

Liberia Div.)
 Mr. D. J. Blickwede Steel Manufacture
 Bethlehem Steel Corp.
 Vice President,
 Research
 Mr. Raymond Colmant Steel Industry
 Société Lorraine de
 Laminage Continu
 "SOLLAC"
 Mr. Cecil B. Wright
 Technical Sales Manager
 Les Baker Steel Researcher
 Alexender McLean Steel Researcher
 Peter Chang-Hee Rhee Steel Researcher